

決算をチェック

平成29年度決算については、予算決算常任委員会で審査されました。(P16、17参照)

平成29年度決算(歳出)

一般会計	477億6,286万0千円	企業会計	
特別会計		水道事業	22億 898万5千円
国民健康保険事業	118億6,702万4千円	下水道事業	41億6,260万0千円
介護保険事業	95億7,744万8千円	小松市民病院事業	84億5,913万9千円
公債管理	84億1,191万6千円		
産業団地事業	5億4,237万3千円		
後期高齢者医療	13億5,768万2千円		
		全会計の合計	943億5,002万7千円



小松市イメージキャラクター
カブッキー



2017年5月～2018年2月号(平成29年度発行分)の議会だよりで予算案のチェックを行ったものについて、その決算を掲載しています。参考にそれぞれの掲載号を記載してあります。

過去の議会だよりは、小松市議会ホームページからご覧いただけます。

小松市議会

 検索

<http://www.city.komatsu.lg.jp/6731.htm>



QRコードも
ご利用ください。

2017年5月号

(仮称)エコロジーパークこまつ・クリーンセンター建設費



【決算額】45億9,440万5,840円
【内容】DBO方式で進めた新ごみ処理施設「エコロジーパークこまつ・クリーンセンター」を整備しました。(平成30年7月1日運用開始)

2017年5月号

木場潟カヌー競技施設整備費



【決算額】1億524万3,040円
【内容】木場潟カヌー競技場の機能向上を図るため、ナショナルチーム専用のトレーニングセンターを新築しました。

2017年5月号・11月号

(仮称)九谷焼創作工房整備費



【決算額】7,020万円
【内容】企業版ふるさと納税を活用し、石川県九谷窯元工業協同組合が行う施設整備に補助金を支出しました。平成31年春にオープン予定です。

2017年8月号

大杉クロスカントリーコース整備費



【決算額】2,349万5,071円
【内容】クロスカントリースキー競技コースとして、また、オールシーズン各種競技コースに活用できる「ホワイトウェーブ1000」を整備しました。

2017年8月号

子育て支援総合コーディネート費



【決算額】6,715万8,322円
【内容】カブッキーランドに子育て相談できる場を設け、こまつ親子つどいの広場・すくすくルームと合わせ、相談場所の充実に努めました。



川崎 順次(かわさきじゅんじ)議員

一括質問

古きよきものは伝え方によって次代に伝えられていく
道案内看板を！

◆小松の日本遺産をどう全国、世界に発信していくか

Q 平成28年度に日本遺産に認定された史跡の一つである鶴川石切り場跡について、鶴遊立地域活性化委員会のみなさんがPRに一生懸命である。まずは主要地方道小松辰口線の早期開通を。

A 遊泉寺町から軽海町地内が県により整備中である。早期完成を管理者の県に要望していく。

Q 北前船寄港地・船主集落について、安宅は安宅の関が有名であり、今年は梯川右岸を整備するが、左岸には長沖の建物、金剛、蔵、安宅住吉神社などたくさん登録有形文化財が点在している。しかし道案内PR看板が一つもない。日本遺産認定の場所に、一日も早くわかりやすい案内看板の設置を。

A 今年度は鶴川、遊泉寺、立明寺町に新たな誘導看板を設置する。

◆避難場所となるグラウンドトイレについて

Q 小中高校でブロック塀調査を実施したことである。串小のグラウンドトイレはブロック造りだが、

点検はしたのか。

A コンクリートブロックの学校グラウンドトイレは2カ所あるが、法令等に適合しており、構造上、耐久性とも問題は無い。

Q 小中学校のグラウンドは避難場所となる。トイレを設置してはどうか。

A 災害用マンホールトイレの整備等に取り組んできた。担当部局と連携し、避難所としての機能整備に取り組みたい。

◆環境保全について

Q 大量にプラスチック製品が海に捨てられ海洋汚染が進んでいる。市の施設でのプラスチック製品の使用を禁止してはどうか。

A 麦わらストローの商品化など、プラスチック発生抑制の取り組みを推進していきたい。

◆食品ロスについて

Q 美しい国をつくるためにも食品ロスに取り組み。

A 3キリ運動や3バック運動を推奨している。食べ物への感謝の気持ちを持ち、啓発活動に努める。



浅村 起嘉(あさむらきよし)議員

一括質問

自然災害に備えた
防災訓練の充実を

◆地域防災力を高めるためには

Q 自主防災組織ランクUPプランなどの活性化の手立てや効果はどうか。

A 防災訓練ステップアップマニュアルをつくり、自主防災組織のレベルを自分たちで採点すると同時に、市も評価基準を設け審査しており、S・A・Bランクが77%を超えた。各組織に防災士が420名、初期対応できるしみん救護員が436名で女性のしみん救護員も189名となった。

Q 避難所開設運営や防災訓練の実施状況、要配慮者のニーズへの対応はどうか。

A 防災訓練の実施率は約80%で、学校では妊婦や授乳の方、高齢者や障がいのある方の部屋を分け、エアコンや畳の部屋などそれぞれで休める。2次的な福祉避難所は14カ所認定し、避難確保計画を作成している。

◆会計年度任用職員について

Q 2020年から新たに導入される制度の趣旨と概要は。

A 地方公務員の臨時・非常勤職員は増加傾向にあり、全国的に統一化・明確化を図り、制度の適正な運用を確保するものであり、服務に関する規定や期末・退職手当の支給が明確化された。

Q 本市で該当する職員は、どの職種にどれだけおられるか。

A 学校の給食調理員や図書館司書、病院や保育所など、庁舎内外で勤務される臨時・嘱託職員は443名である。



自主防災組織による防災訓練



灰田 昌典(はいだまさのり)議員

一括質問

企業誘致の見通しについて

◆正蓮寺エリア産業団地の状況

Q 企業誘致は地域の雇用を生み、定住促進、人口増加に直結する最善の施策である。現在までの誘致活動の状況は。

A 464社に対する企業立地に関するアンケート調査、ダイバロツパーへの情報提供、企業訪問等を重ねてきた。

Q 安宅新地区の進捗状況、完成予定時期、土地利用の方向性は。

A 9割を超える地権者の同意を得ている。事業への合意形成を今年度中を目途とし、一日も早い土地整理事業の立上げに努めたい。土地利用については、新たな臨空関連及びビジネスの交流拠点を目指している。

◆小松駅ターミナルプランの推進について

Q 何を重視し、力点を置いてプランを推進するのか。

A 交流拡大を見込んで、駅周辺駐車場を増やした。駅南に臨時の停車場をつくり、駅東、駅西がより柔軟に利用できるように考えている。

◆雪対策の強化について

Q 今年2月の豪雪で37年ぶりという災害に見舞われた。その教訓を生かし、すでに対策を検討したと聞く。積雪10cmに達する見込みの段階で出勤要請を出せないか。今冬の雪に備え、これまでよりも何を強化し、何が変わるのか。

A 効果的な除雪のため主な除雪機械にGPSを導入する。町内でできることとして雪捨て場を指定していただく。今年大変効果を発揮した企業の時差出勤に取り組んでいく。

◆市内事業者と職員力のレベルアップを図れ

Q 市職員には現場に即応した現場力が必要である。事業者との意見交換会を設けられないか。

A 3D活用等の研修や意見交換会を実施してきた。今後も技術力向上や人材育成に努めていく。

Q 市内事業者に対するレベルアップ支援を。

A 小松市経営モデルチェンジ支援事業において、先端設備導入への支援を創設した。支援策をさらに充実していきたい。



吉本 慎太郎(よしもと しんたろう)議員

一括質問

「2020」「2023」「2040」小松市のターニングポイントに向けて

◆「2020年東京オリンピック」と「小松パラリンピック」と「小松」

Q 小松市では、ボランティアアスタツフである「こまつ市民サポーター」を募集している。現在の登録者数と目標数は。担っていただきたい大きな役割は何なのか。

A 登録者は44名であり、一人でも多くの参加者を目指している。滞在期間中、選手の生活面での手助けや文化体験のサポートをしていただく。

Q 国際都市こまつへの布石として通訳ボランティアのさらなる育成を。

A 事前合宿の行われるホストタウン国へのサポートを通し、国際人の育成を図りたい。

Q 多言語AIコンシェルジュ等、ICTと市民力との相乗効果で、おもてなし力の向上を。

A 様々な観光情報を多言語で提供することが可能となり、東京オリパラ2020に向け、おもてなし力の向上に努めたい。

◆「2023年北陸新幹線」と「小松」

Q 小松駅東西広場整備について、何よりも求められるのは交通動線の確立である。自家用車、バス、タクシーの駐車場の確保とともに、スムーズな走行ができる広場整備を。

A 増加する広場の自家用車での送迎やタクシー、バスの停車スペースの数を確保し、アズスクエア横の通路区域の活用を含め、使いやすく機能性を確保した広場にしたい。

◆「2040年小松市制100周年」に向けて

Q 10年ビジョン、NEXT10年ビジョンに続く長期ビジョン策定の根幹とするものは。

A 策定に向けての方向性はこれからである。今はヒントを吸収している最中である。

Q 未来へ繋ぐ「小松のレガシー」を。

A 小松市はものづくり、創意工夫、チームワークがよい。そういった面でも新しいビジネスづくり、新しい文化づくりにチャレンジしたい。



南藤 陽 (なんとう よういち) 議員

一括質問

さらなる地域力の向上に向けて

◆はつらつ協議会について

Q 本市が推奨する「はつらつ協議会」が発足している5校下の現在の活動内容は。

A コミュニティカフェの開設やイベントなど、多様な取り組みが行われている。

Q 「はつらつ協議会」の活性化策と5校下以外で発足を促進する推進策は。

A 校下公民館をはつらつ協議会に発展的に改編することで、実行性ある運営が可能になると考える。

◆結ネットについて

Q 市と町内会を結ぶスマートフォンアプリ「結ネット」が7月に導入されたが、各町内会の反応と登録数を増やす取り組みは。

A 好意的な意見が多い。導入方法の研修会などを実施している。

Q このアプリを町内会で活用すること、町内会役員の負担軽減や、若者の町内会行事への参加率の向上など、町内会にもメリットが期待できるが次の展開は。

A 登録町内会数や掲示板機能を含めた活用件数の拡大に努める。

また助成制度の利用により、初期導入費用の助成が可能である。

◆AEDの推進について

Q 平成24年度の自主防災機能強化支援事業を契機に、市内の公民館にAEDが広まったが更新時期を迎えている。費用対効果を考え、設置をやめようという声も聞こえるが本市の見解は。

A 一見無駄に思われるが、危機管理とは、命を奪ったつた一度の本番に備えることと考える。

Q AEDの普及促進のために、「はつらつ環境整備助成金」の対象にならないか。

A 町内にアンケート調査し、AEDの推進支援を検討したい。

◆栗津温泉の活性化に向けて

Q 開湯1300年の記念すべき「おっしょべ祭り」の感想と、今後の栗津温泉交流広場の活用策は。

A ジャパンテントと重なることにより4倍、16倍の効果があった。交流広場ではフリーマーケットを開催した。地域おこし協力隊等の力で相乗効果を発揮したい。



新田 寛之 (にいた ひろゆき) 議員

一括質問

こども医療費の助成について

◆柔道整復師(接骨院・整骨院)にかかる場合の窓口無料化について

Q 現在、18歳までの子どもが医療機関にかかる場合、こども医療費受給者証を提示することで、保険診療分の支払いが無料、いわゆる窓口無料化となっている。柔道整復師の施術にかかる療養費も、医療機関にかかる場合と同様に窓口無料化すべきである。

A 平成29年度の柔道整復師の施術にかかる療養費として償還払いを行った件数は1391件であった。

Q 今年度は夏は大変な酷暑であった。歩行者やランナーの視点から、周遊園路沿いの休憩所やトイレ等に冷水機があると、さらに快適に利用できるのではないかと。

A 平成26年度の都市公園の利用実態調査では、トイレなどの水関連について85%の利用者が満足しているが、逆算すると15%はやや不満を持っている。

Q 木場潟周遊園路の冷水機設置について

A 木場潟の4園地に、水飲み場は全部で10カ所あり、飲料自動販売機は18台ある。いよいよ東園地の開発が始まるが、開発となればさらに利用者が増えるということもあるので、冷水機についてどうするかを考えるいい機会かもしれない。木場潟公園協会の理事長によく伝えておく。

氏名		住所	生年月日	性別
1男	1男	2大		
2女	3男	4甲		
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

柔道整復師療養費も窓口無料化に